

「国際社会に生きてはたらく力の育成」 Nurturing the power to work in an international society

白石貴士 Takashi Shiraishi

Reference data:

Shiraishi, Takashi (2010) 「国際社会に生きて働く力の育成」 Nurturing the power to work in an international society. In: Reinelt, R. (ed.) (2010) *The new decade and (2nd) FL Teaching: The initial phase* Rudolf Reinelt Research Laboratory EU Matsuyama, Japan, p. 139 – 148.

国際社会に生きてはたらく力の育成

愛媛大学教育学部附属小学校 白石 貴士

1 研究の動機とねらい

(1) 研究の動機

本校では、社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や国際協力が求められることを想定して、国際社会の中で主体的に考え・行動する資質や能力を育成することを目指してきた。これからの時代は一層、グローバル化した世の中になり、世界の相互依存関係がさらに進み、世界が一体化した時代になっていくであろう。そのような中、目の前の子どもたちが日本人としての自覚をもち、国際社会の中で新しい時代を切り拓いていくために必要とされる資質や能力を兼ね備えることが急務である。

(2) 研究のねらい

ア 実践的研究主題について

では、子どもたちが国際社会の中で新しい時代を切り拓いていくためには、子どもたちのどのような姿が求められているのか。わたしたちは、それを「自他の言語や文化を理解し合い、他者と積極的にコミュニケーションを図る子ども」ととらえた。また、小学校学習指導要領には、「言語や文化について体験的に理解を深める」、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる」ことを通して、コミュニケーション能力の素地を養うことが目標として掲げられている。その目標を踏まえて、わたしたちはとらえた子どもの姿をさらに細分化し、「多くの価値観を共有・共感する子ども」、「周りの友達や異文化を背景とした人たちと柔軟にコミュニケーションを図る子ども」、「文化や言語などの膨大な情報を適切に取捨選択する子ども」など、国際社会の担い手として主体的に考え行動する子どもの姿が必要ではないかと考えた。これらの求められる子どもの姿を整理し、大きく三つの資質や能力に編成した。

- 文化や普遍的価値を共有・共感しようとする資質や能力
- 自分及び他者との関係を構築しようとする資質や能力
- 文化や言語などの情報やスキルを活用しようとする資質や能力

「文化や普遍的価値を共有・共感しようとする資質や能力」は、「よさ」や「すばらしさ」などの価値基準を体験的に共有しようとしたり、それぞれが築き上げてきた文化を自分の価値と照らし合わせて体験的に共感しようとしたりする資質や能力である。

「自分及び他者との関係を構築しようとする資質や能力」は、自分の思いを積極的に表現するとともに他者の思いを理解し、互いに成長できるかわりをしようとする資質や能力である。

「文化や言語などの情報やスキルを活用しようとする資質や能力」は、目の前の情報に対して、その意味や価値、意図などを相手に伝わるように表現しようとしたり、相手の思いや意図を聞き取ろうとしたりするなど、非言語や言語をコミュニケーションの道具として用いる資質や能力である。

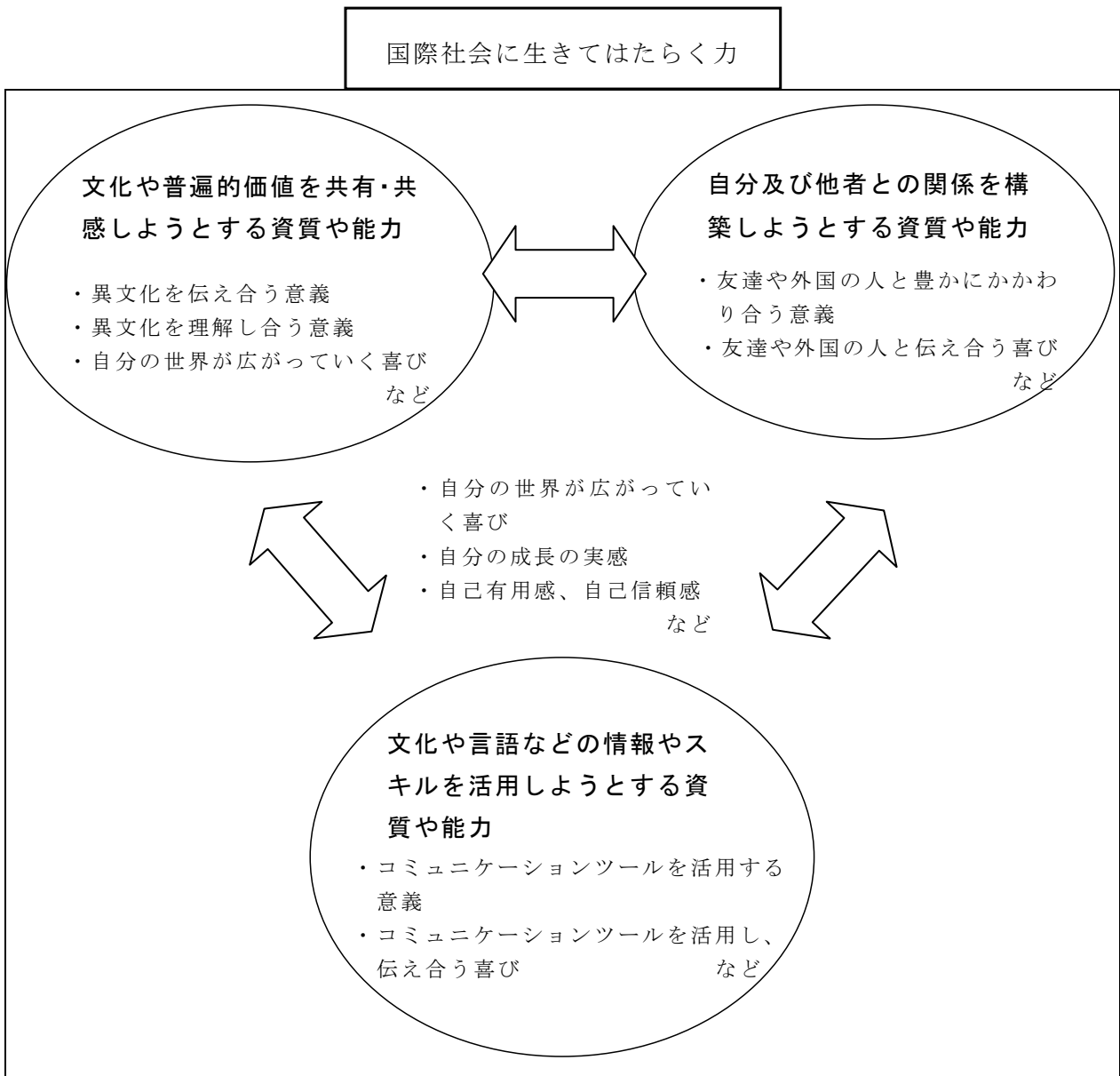
本領域の特性は、このような資質や能力の素地を育てていくところにある。そこで、本領域の主題を次のように設定した。

国際社会に生きてはたらく力の育成

イ 本領域で育てたい資質や能力のとらえ

これら三つの資質や能力は、これまでに研究を積み重ねてきた〈人間力〉の捉えのベースとなるものであると考える。

子どもたちは、「交流」という体験的活動を軸に、異文化を知ることへの喜びを味わい、興味・関心を高め、異文化を伝え合ったり理解し合ったりすることへの意義やコミュニケーションを図ることの大切さを見いだしてくると考える。さらに、子どもたちは、そうした活動を通して、同じ教室で学ぶ友達との豊かなコミュニケーションが「交流」を成功させる原動力になることも学んでいくであろう。そして、外国の人と伝え合う喜びや価値観や視野という自分の世界が広がっていく喜び、自分の成長を実感し、自己信頼感を高めていくと考える。



ウ 発達特性に応じた育てたい資質や能力

発達期における育ちの特性から、発達に応じた育てたい子どもの姿を導き出した。

【発達期における育ちの特性】

	3・4年	5・6年
共有・普遍的価値を文化や普遍的価値を共有・共感しようとする資質や能力	<ul style="list-style-type: none"> 外国の人とふれ合う楽しさや伝え合う喜びを感じる。 知る喜び、できる喜びを素直に感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝えたいことが明確に伝えられたか、自分の表現を問い直そうとする。 外国の人とふれ合う大切さを感じ、自分や自国の文化との違いを意識し始める。 活動を通して自分の成長や変容を感じる。 素直に表現することにはずかしさを感じる。
自分及び他者との関係を構築しようとする資質や能力	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して活動内容を話し合うが、自分本位になってしまうこともあ 外国の人に積極的にかかわろうとする。 表情やジェスチャーなど、体全体を使ってコミュニケーションを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に適した交流内容やコミュニケーションの手段について話し合う。 互いのよさを認め合いながら、よりよい表現に高め合おうとする。 英語を積極的に使ったコミュニケーションを楽しむようになる。
文化や言語などの情報やスキルを活用しようとする資質や能力	<ul style="list-style-type: none"> 外国語に興味をもつ。 外国の人に日本のよさを伝えたいと願う、異文化を知ることに関心をも 外国や日本の文化を調べることを楽しみ、違いやよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことや身近なことを伝え合おうとする。 外国語への興味・関心が高まり、外国語が使えるようになりたいと願う。 外国と日本の互いのよさを理解しようとする。

【育てたい子どもの姿】

	文化や普遍的価値を共有・共感しようとする資質や能力	自分及び他者との関係を構築しようとする資質や能力	文化や言語などの情報やスキルを活用しようとする資質や能力
3・4年	よりよい交流を求めて交流の内容を工夫する。相手に伝わる喜びや伝え合う喜びを実感し、自分の成長や変容に気づき、自己信頼感を高める。互いを認め合うよさや喜びを感じる。	よりよい交流にするために、互いの考えを聞き合い、認め合いながら話し合いをする。	体全体で積極的にコミュニケーションを楽しむ。相手の反応を感じながら対話を続けようとする。
5・6年	よりよい交流を求めて交流の内容を工夫する。思いを伝えるための適切な表現を探す。自分の思いが相手に伝わる喜びを実感する。外国の人とふれ合う大切さを実感し、自分や自国の文化を見つめ直す。自分の成長や変容を自覚し、これからの生き方に生かそうとする。	目的にかなう交流内容やコミュニケーションの手段について話し合う。互いのよさを認め合いながらよりよい表現に高め合う。	相手意識をもち、話をしっかり聞いて相手の伝えたい内容を理解する。相手意識をもち、適切な表現方法で話しかける。積極的にコミュニケーションを楽しむ。

エ 国際・外国語活動の流れ（概要）

育てたい子どもの姿を元に、子どもたちが必要感をもって活動するであろう学習の流れを導き出した。

年 期	主な活動内容	Activities	子どもたちが使う表現	
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションの基礎であるあいさつを中心に、言葉や食文化について話を聞いたり、ゲームをしたりして、ALTとのかかわり、異文化とのかかわりを深める。 ○ カナダの食文化をきっかけに、ALTと食文化の交流（パーティー）をひらく。 	Let's sing. Let's listen. Canada's Animalsの紹介を聞く Canada's Mealsの紹介を聞く Canadian Janken Fruits Basket	Gestures Hello. Good morning. Good bye. See you. How are you? I'm ~ . Nice to meet you. My name is ~ .
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ フィリピンの小学生との交流を通してフィリピンの食文化を知り、日本の食文化を教える。 ○ フィリピンの食文化との共通点や相違点を体験し、相互理解を図る。 	Let's sing. Let's listen. Philippines foodsの紹介を聞く Japanese foodsの紹介 Fruits Basket	What's your name? I like ~ . Good morning. /MAGANDANG UMAGA Thank you. /MARA-MING SALAMAT Foodsに関する単語
4	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ ハワイの留学生と交流をし、ハワイの自然や文化について知るとともに、フラを体験する。 ○ フラの踊りには一つ一つの動きに意味があり、人を感動させることから、非言語の中にも人に気持ちを伝えることができることを知る。 	Let's sing. Let's listen. Hawaiiの自然や文化を知る HulaのSign Languagesを知る Gestures Game	Gestures Hello. /Aloha Hula (White Sandy Beach) Matsuyama's Dance Philippines Dances Turn, Left, RightなどDancesに関する単語
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ フラの経験を基に、松山の伝統的な踊りに触れ、フィリピンの小学生に伝える。 ○ フィリピンの踊りを教えてもらい、共通点や相違点に触れ、相互理解を図る。 	Let's sing. Let's listen. Philippineの踊りの紹介を聞く Matsuyama's And Japanese Danceの紹介	
5	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ オーストラリアの小学生や留学生と自己紹介をし合い、コミュニケーションをとる楽しさを味わう。 ○ 来校された留学生に学校の案内をする。 	Let's sing. Let's listen. Finger Game Gestures Game Who am I?Game Karuta Game 教室あてGame Guide Game 自己紹介をし合う Show and Tell	Gestures How are you? I'm ~ . Are you OK?Take care.Very good.I'm sorry to hear that. I'm happy to hear that. I like ~ . May I ask you something? Do you like ~ ? Yes, I do.No, I don't. I don't like ~ . What ~ do you like? I want to go to ~ .

	2	○ 学校紹介や学校生活の紹介をし合い、オーストラリアの小学生や留学生との相違点や共通点などを知る。	Let's sing. Let's listen. Finger Game What is this?Game Black Box Game Gestures Game Karuta Game Three Hints Quiz Shopping Game 自分のお気に入りの場所を紹介し合う Show and Tell	When is your birthday? My birthday is in ~. What is this? This is ~ . What ~ is this? ~ is famous for ~. My favorite space is ~. Numbers How many ~ ? Which do you like A or B?
	3	○ 勉強していることや食文化について紹介をし合い、オーストラリアの小学生や留学生の出身地との相違点や共通点などの相互理解を図る。	Let's sing. Let's listen. Finger Game Karuta Game Stereo Game Three Hints Game 勉強していることや食文化について紹介し合う Show and Tell	What do you want? Here you are. Thank you. You are welcome. What's this? It's ~. I study ~. What do you study? What would you like? I'd like ~. I eat ~ in the ~. How do you say ~ in ~?
	6	1	○ 修学旅行で外国の方と話しをして外国語活動の意欲付けを図る。 ○ 自己紹介の内容を増やし、友達と紹介し合い、コミュニケーションをとる楽しさを味わう。	Let's sing. Let's listen. Chain Game Stereo Game Gestures Game 国旗当てQuiz Karuta Game 修学旅行で外国の方と話したことの紹介 カレンダーづくり Show and Tell
	2	○ 自分の行きたい国についてまとめ、友達と紹介し合う。 ○ オーストラリアの高校生や中学生と自己紹介をし合ったり、日本の文化を紹介したりする。 ○ 自分のなりたい職業について友達と紹介し合う。 ○ 外国の人を学校案内する。	Let's sing. Let's listen. 夏休みに調べたことの発表 日本の文化の紹介 Karuta Game Simon Says Game なりたい職業の紹介 道案内をし合う Show and Tell	I want to ~ . My name is ~ . I want to be a ~ . I like ~ . Where are you going?
	3	○ 自分の一日を紹介し合う。 ○ 卒業に向けての感謝や自分の思いを伝え合う。	Let's sing. Let's listen. Gestures Game Karuta Game 自分の一日の紹介 感謝状や思いをつづるカード作りをする Show and Tell	What time is it? It's ~. What time do you go to ~? I go to ~ at ~.

2 授業実践の構想

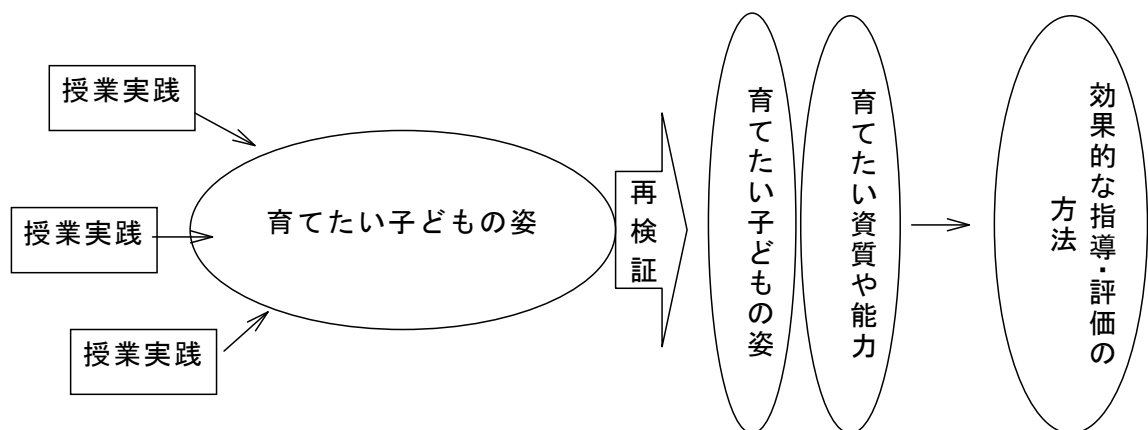
国際・外国語活動において、国際社会に生きてはたらく力を育てるためには、先に述べた三つの資質や能力を一つ一つを切り離して考えるのではなく、密接に絡み合わせることで子どもたちの資質や能力が連動し、コミュニケーション能力の素地が養われると考える。すなわち一つの学習がいろいろな資質や能力を培っていると言える。

そして、本領域では、言語の習熟を図る、体験活動をするという狭義の学習ではなく、必要感のある体験的な学習を通して、外国語や異文化を知る楽しさや、外国語を使い、自分の文化を伝える楽しさにふれさせ、本領域で身に付けさせたい資質や能力を培うことが大切であり、その身に付けた資質や能力を実践的に発揮させることを目指している。その必要感のある体験的な学習を支えるために、下の三つのことを大切に授業づくりをしていくべきだと考える。

- (1) 本領域で育てたい資質や能力の吟味
- (2) コミュニケーションを自然に生み出す実践的な場づくり
- (3) 実践的な場にふさわしく、発達段階に合った語彙の精選

(1) 本領域で育てたい資質や能力の吟味

これまでに、本領域の学びにおいて求められる子どもの姿を、「自分と学習対象・学習内容」「自分と他者」「自分と自分自身」という三つの関係性において生きる人間の姿から〈人間力〉ととらえ直すという共通理解に基づいて、12年間の子どもの育ちを想定し、発達に応じた「願いと子ども姿」を設定し、指導と評価の充実を図ってきた。これにより、〈人間力〉の育成という理念が授業実践へと具現化されることになった。しかし、領域を越えて共通する力や本領域で独自に培われる力として整理するには至っていない。そこで本年度は、本年度始めに立てた育てたい資質や能力に基づいて行われた本年度の授業実践をまとめ、育てたい子どもの姿を再検証していく。それにより、本領域における育てたい子どもの姿が浮き彫りになり、本領域で育てたい資質や能力を確立することができるであろうと考える。そして、今後、効果的な指導・評価の方法も導き出すことができるであろうと考える。



(2) 必要感に支えられたコミュニケーションを生み出す実践的な場づくり

子どもたちにとってこの領域の時間は、活動的で魅力的な時間である。しかし、決まりきった活動メニューや教師の指示した言葉をオウム返し活動により、興味・関心の減退を招いてしまうことがある。聞くこと・話すことに主をおいた領域だからこそ、外国の人との交流を柱とした授業の展開が望ましいと考える。外国の人を招くことにより、自分が伝えたいことを外国の人にも分かるように伝える内容を精選したり、自分の伝えたいことを多様な手段を使って最後まで伝えようとしたり、異文化を目の前にしたときに知りたいと思う気持ちが高まったり、

外国の人が伝えようとしていることを一生懸命理解しようとしたりするなど、必要感に支えられた「聞くこと・話すこと」に重点が置かれた授業の展開ができるであろうと考える。また、日本と時差の少ないオーストラリアやフィリピンなど、子どもたちと同世代の外国の子どもたちとインターネットを使って出会うことにより、質問する内容も普段の遊びやいつも食べているおやつ、興味をもっていることなど、本当に知りたいことを聞いたり話したりすることなども期待できる。

このような交流を柱とすることで活動の目標が明確になり、バックワードプランニングの考え方により、その目標を達成するよう相手意識をもった単元構成が期待される。さらに、ALTとは違い、ネイティブでない英語にも触れる機会も期待できる。英語という世界のあらゆる国や地域で活用される独特な言語だからこそ、その外国の人が発する英語の背景に、その国の文化を感じながら魅力的な授業が展開できると考える。さらに、クラスの友達も身近な異文化としてとらえ、友達と必然的にコミュニケーションの場が生まれるように授業を展開する必要があると考える。クラスの友達に外国語を使って自分の伝えたいことを多様な手段を使って伝え、友達が伝えようとしていることを理解しようとする。普段の会話も外国語を使うことによって新鮮さを感じることができるとともに、一生懸命伝えよう、理解しようという気持ちも高まってくるであろう。そのような活動を繰り返すことにより、意欲をもって主体的にコミュニケーションを図ろうとする子どもが育つと考える。また、子どもにとって必要感をもって体験し、その体験で感じたものが本当の資質となり、身に付いたものが本当の能力になると考える。すなわち、必要感に支えられた体験を通すことで、「次はこんな話がしてみたいな」「自分や自分たちのことを伝えたいな」という姿勢が生まれ、コミュニケーションをとるために必要なツール「外国語」の認識が育つと考える。そして、国際社会に生きてはたらく力を育成できるであろうと考える。



インターネットを使って学校紹介をしているところ



インターネットを使って折り紙の折り方を紹介しているところ

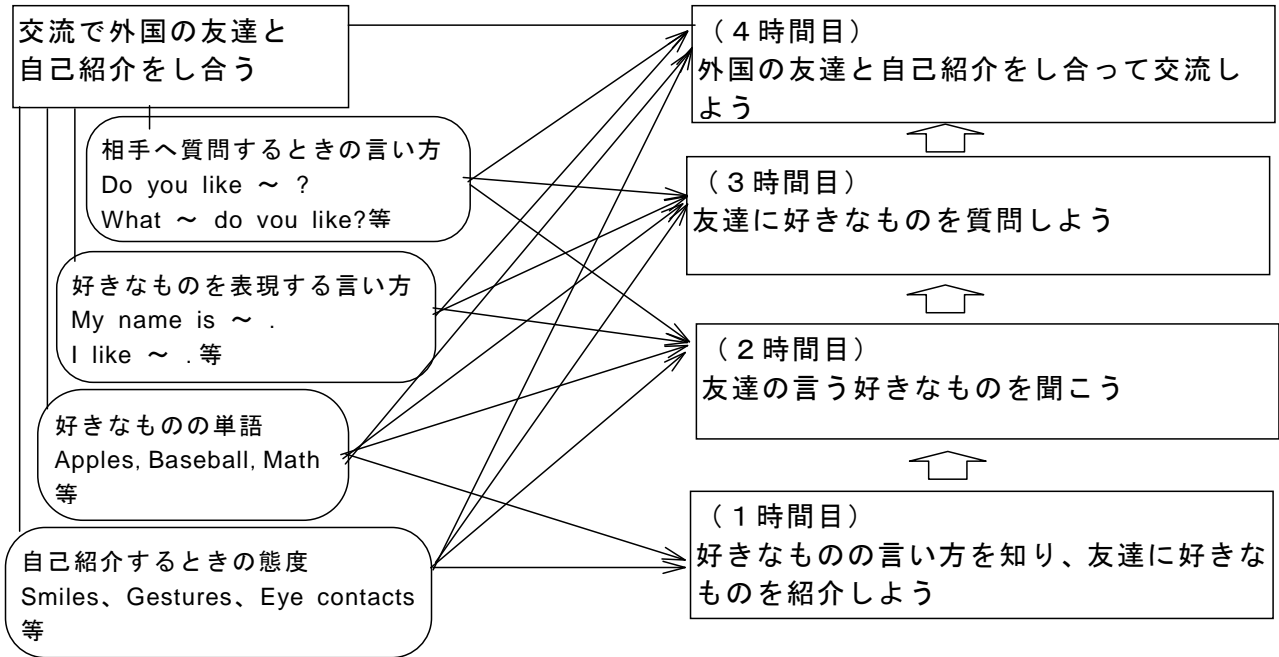


留学生にコマの回し方を紹介しているところ



留学生から出身国の様子を教えてもらっているところ

【バックワードプランニングによる単元構成】（自己紹介をする単元での例）



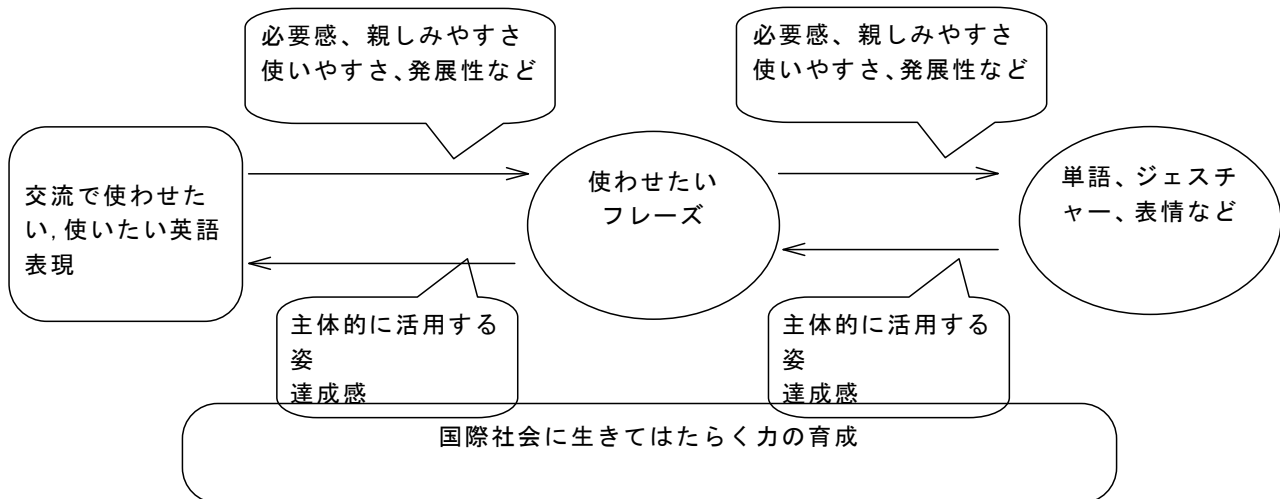
【子どもたちが学ぶ意欲を高める Activity の例】

道具や場面	教師主導のActivities	必要感に支えられたActivities
音楽を使って	<ul style="list-style-type: none"> 歌を聴く。 歌を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌をジェスチャー付きで歌う。 みんなが知っている歌の外国語バージョンを歌う。
カードを使って	<ul style="list-style-type: none"> Finger Gameをする。 Karuta Gameをする。 Three Hints Gameをする。 Stereo Gameをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選び、Stereo Gameをする。 自分の好きなものをThree Hints Gameにする。
友達と一緒に	<ul style="list-style-type: none"> Chain Gameをする。 Bingo Gameをする。 新しく知った言葉やフレーズを使って友達と質問をし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の言ったこともつなげていくChain Gameをする。 Fruits Basketをする。 予想をして友達と質問をし合う。 交流に向けて精選し合う。

(3) 実践的な場にふさわしく、発達段階に合った語彙の精選

子どもたちにとって、初めてふれる外国語は、そのもの自体に興味があり、使ってみたいな、身に付けてみたいなど、一種のあこがれを抱くものでもある。そして、子どもたちの実践的な体験が期待される。しかし、一方で一度苦手意識をもつと外国語嫌いになり、今後の活動を一切受け付けないようになる危険性をはらんでいると言っても過言ではない。そのような外国語だからこそ、取り扱う語彙に配慮をしなければならぬだろう。そこで、子どもたちが、「使ってみたい」「使ってみよう」という興味・関心や必要感、「こんなことが分かった」「次はこんなことが言いたい」という達成感を感じさせることができるように、交流で使えるものか、必要のあるものか、親しみのあるものか、使いやすいか、発展性のあるものかなどの観点で精選していくべきだと考える。そうすることにより、子どもたちにとって達成感を感じさせることができ、外国語が身近なものに感じられ、活動の中で主体的に外国語にかかわることにつながるだろう。そして、国際社会に生きてはたらく力を育成できると考えられる。

【語彙の精選】



3 今年度のまとめ

(1) 成果と課題（成果○、課題●）

- 発達特性を踏まえ、育てたい資質や能力を導き出した。これにより、本年度新たに4年間を見通した活動内容が明確になり、よりよい単元を構成することができた。来年度も引き続き、発達特性に応じた子どもたちのよりよい育ちを促していく単元を構成していきたい。
- 単元ごとに交流を決定し、それに向けて価値ある様々な活動を通して、言語や文化に慣れ親しませることができた。また、子どもたちにとって様々な国の留学生とふれあうことや決まった同年代の子どもたちとふれあうことは、どちらも内発的な動機付けに大きな役割を担っていることが確認された。
- 外国語を使いたい、使って相手と話しがしたいと強く思っている子どもが多いと再確認することができた。その意欲を十分交流で引き出すためには、言語や非言語を自信をもって活用できるようにならなくてはならない。自分の伝えたいことを中心に学ばせることができるよう、Activityの内容や語彙の精選が一人一人に配慮されることが大切であることが確認された。
- 中学校、さらには小学校低学年、幼稚園、高等学校などの発達特性を踏まえ、育てたい資質や能力を導き出し、可能な限りあらゆる発達段階の子どもを対象に活動を行っていくことも考えなくてはならない。
- 交流は行う時期やタイミングを考えることが必要である。交流が多ければ多いほどいいものではない、自分の文化を見つめ、発信するためのエネルギーが必要である。また、相手のことを聞きたい、知りたいと思うエネルギーも必要である。どの時期にどのような内容の交流を行い、ふれあうのか吟味していく必要があるだろう。
- 交流という実践的な場では、自分の思いや考えを十分伝えることができない可能性がある。また、相手の思いや考えも十分聞き取ることができない可能性がある。そのような中でも上手にコミュニケーションがとれるよう、相手の思いや考えを捉えることができる力を育てることが必要であろう。それには、単元中のActivityが重要な役割を担っている。語彙の精選と共に、Activityの精選も必要であろう。